
第76期

事業レポート

平成18年11月1日 ▶ 平成19年10月31日



MIROKU
株式会社ミロク

証券コード 7983

グループ 企業理念

“HONESTY”を貫く真摯なモノづくりで、
ミロクグループは世界に誇れる企業を目指します。

明治26年の創業から1世紀を超える歴史と伝統に培われた「匠の技」と、最新技術の融合が生み出すオンリーワンの商品群。美しさや機能、耐久性、そして安全性などの多様で高度なニーズに応えるため、何事に対しても頑なまでに正直な姿勢でモノづくりに取り組む。ミロクグループは“HONESTY”の精神を貫き、世界への飛翔を目指します。

1

世界最高水準の銃づくりで培った技術に一層磨きをかけ、応用・展開を図ることにより、顧客にとってさらに価値ある商品を提供していきます。

2

会社の活動を支えるのは従業員一人ひとりの力であることを心にとめて、従業員にとって働き甲斐があり、持てる力を十分に発揮できる職場を作ります。

3

法と倫理を遵守し、自然・地域と共生しながら、会社に関わるすべての人や組織にとって価値ある企業であることを目指します。

その他関連会社

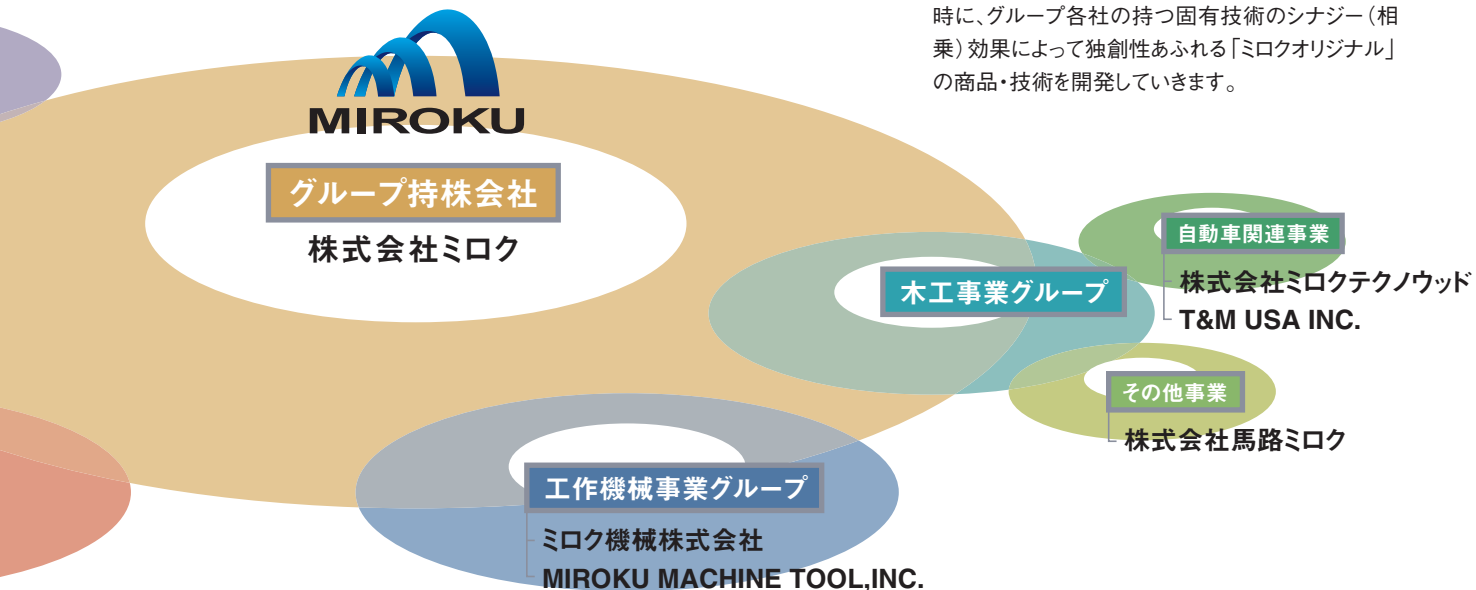
株式会社特殊製鋼所
株式会社ミロク興産

猟銃事業グループ

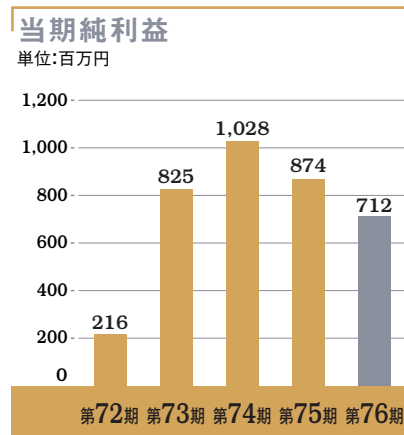
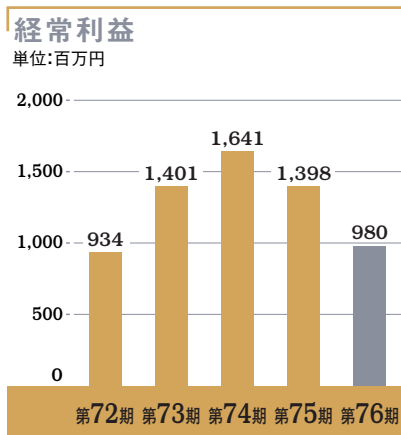
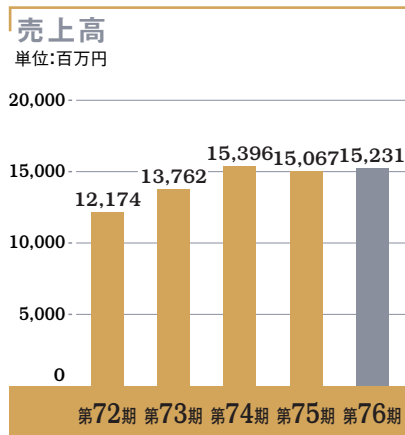
株式会社ミロク製作所
株式会社ミロク精工
株式会社香北ミロク
株式会社椿原ミロク
株式会社ミロク工芸
ニッサンミロク株式会社

グループ各社がシナジー効果を発揮しながら、
独創性にあふれる商品・技術の開発に挑んでいます。

世界的に屈指の評価を受けるミロクの猟銃。その製造技術を応用展開して、小径で高精度の深孔加工ができるガンドリルマシンなどの工作機械事業や、削り出し成型による純木製自動車用ステアリングハンドルの量産に世界で初めて成功した自動車関連事業など、グループ企業としての多角化を図っています。中核となる猟銃作りの技術をさらに深めていくと同時に、グループ各社の持つ固有技術のシナジー（相乗）効果によって独創性あふれる「ミロクオリジナル」の商品・技術を開発していきます。



ハイライト情報（連結）



トップインタビュー

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、
ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
ここに、第76期（平成18年11月1日から平成19年10月31日まで）の
事業レポートをお届けいたします。
今後とも株主の皆様から厚いご指導、ご支援を賜りますよう、
何卒よろしくお願い申し上げます。



平成20年1月
代表取締役社長

弥勒 美彦

Q 当期のミロクグループの
事業動向は？

A 猟銃事業は苦戦なれど、
他事業は好調に推移しました。

当連結会計年度のわが国経済は、企業収益の堅調を背景とした設備投資の増加に加え、雇用情勢の改善により個人消費も持ち直すなど、景気は緩やかな成長を持続してきました。しかし、猟銃事業の主力となる米国市場は、原油高の影響による狩猟機会の減少から購買意欲が停滞するなど、厳しい状

況が続きました。その一方で、自動車・金型関連業界の好調によって工作機械事業は増収・増益を達成。また、自動車関連事業も堅実に推移しました。

グループ各社においては、お客様の期待に応えられる製品作りを目指し、独自性の高い製品の開発や品質向上、また原価低減への取り組みなどに全力を尽くし、グループ一丸となって業績向上に努めてきました。

以上の結果、当連結会計年度の連結売上高は15,231百万円（前期比1.1%増）となりました。また利益面では、経常利益980百万円（前期比29.9%減）、当期純利益712百万円（前期比18.5%減）となりました。

Q 当期において力を注がれたことは？

A 新製品の開発と生産拠点の拡充に努めました。

(株)ミロク製作所を中心とした猟銃事業においては、新型ボルトアクションライフル「X-BOLT」、銘銃の限定レプリカモデル「M-1892 John Wayne生誕100年記念銃」、ショットガンの自信作「Citori625」というニューモデルをリリースしました。特に「X-BOLT」は、1984年に開発した「A-BOLT」以来の新製品です。生産面では生産革新活動「MPI-30」が2年目に入り、プロセスごとの改善によって工数の削減は着実に前進してきました。最終目標の30%削減が実現できる手応えを感じています。

また、高知テクノパークに建設した「部品加工センター」が本年9月から稼働を開始しました。ここに生産工程を集約することで、効率的な生産ラインの確立と外注部品の内製化を推進。生産活動のボトルネックを解消すると同時に、基幹部品の付加価値と製造ノウハウを社内に蓄積すべく努めました。最新鋭の製造機械も導入し、より一層の省力化と24時間操業を可能にしています。

ミロク機械(株)が展開する工作機械事業では、新製品の開発と新仕様製品の追加を推し進めました。品質向上を目指して改善を施したツールの製品化のめどが立つなど、成果は順調に上がっています。また、前年度に完成したツール新工場に続いて、4月には定盤の新工場も完成。生産能力の拡張と品質の向上を実現させ、シェア拡大への販売促進に取り組みました。加工部門では、受注力の強化に努めました。海外展開にも意欲的に取り組み、米国、中国、東南アジアからインドに広がる日系企業の生産拠点を中心とした販売ルートの拡大に注力しました。

(株)ミロクテクノウッド(持分法適用関連会社)による自動車関連事業では、工程改善による継続的なコストダウンを行いました。現場のQC活動を通じて全員参加によるコストダウンを目指した新しい仕組みやシステムの導入に取り組んでいます。また、新たな商品の企画・開発・提案の強化にも力を注ぎました。



Q 来期の展望をお聞かせください。

A 猟銃事業の立て直しを急ぎ、グループ全体の発展を図ります。

最も重要な課題は、二期続けて厳しい結果に終わった猟銃事業の立て直しにほかなりません。満を持してリリースした「X-BOLT」の生産がスムーズに行えなかったことも大きな反省点です。「X-BOLT」がブローニング社のカタログに載り、本格的に販売されるのは08年から。万全の生産体制を組んで、ブロー

Q 株主の皆様へメッセージをお願いします。

A 今までに蒔いた種が開花し、実をつける年です。ぜひご期待ください。

来期には、猟銃事業の復活をかけた待望の新製品が発売されます。ブローニング社と共同で一から新開発した「X-BOLT」は販売代理店へのレビューで非常に高い評価を受けており、08年2月に開催される全米最大の展示会「ショットショー」でのデビューが楽しみです。また、部品加工センターも5月には当初予定した生産ラインの移転が完了します。

工作機械事業はツール・定盤の生産体制が充実し、当期を上回る収益が期待できます。自動車関連事業も独自の技術を活用し、純木の質感を飛躍的に向上させたステアリングハンドルの製品化を目指しております。

このように来期は、今までに蒔いた種が花を咲かせ、実を結ぶ年と言えるでしょう。ぜひ、ご期待いただきたいと思います。

ーニング社の信頼に応える所存です。同時に「MPI-30」をさらに推し進め、その成果を会社の業績に結びつけたいと考えます。

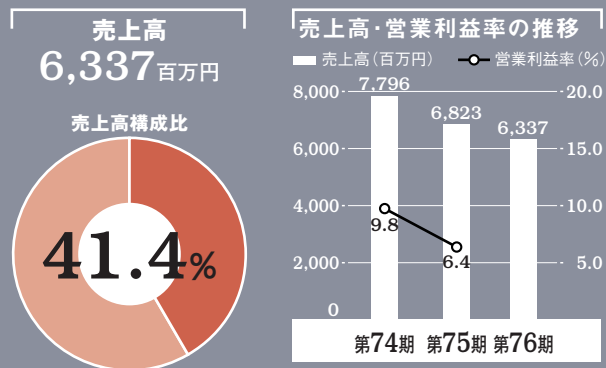
しかしながら、全力を尽くしても猟銃事業の業績が一気に最盛期のレベルまで好転することは難しいと思われれます。それを補完するために、来期も好調が期待される工作機械事業ならびに自動車関連事業の事業強化に力を注いでいきます。生産面が充実した工作機械事業では、営業活動のより一層の強化を図り、自動車関連事業ではさらなるコストダウンの実現と新製品の提案を推し進めます。これによって、ミロクグループ全体の業績向上を実現させる所存です。

また、社会の公器である上場企業として、コンプライアンスの徹底に取り組み、どなたからも安心して株式をご購入いただけるオープンでフェアな環境を整えていきます。

今後ともグループの総力を結集して、株主の皆様へのリターンを着実に高めていく所存ですので、より一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



猟銃事業



主力となる米国市場の購買意欲が、原油高の影響によって停滞を続けました。また、新製品の設計の見直しなどにより計画通りの生産量に至らず、納期遅れやロスコストが発生。さらに新設の部品加工センターへの移行費用などの増加も重なりました。

その結果、売上高は6,337百万円（前期比7.1%減）、営業損失は6百万円となりました。

来期も米国市場は、原油価格の高騰やサブプライムローン問題などの影響を受け、引き続き厳しい状況が見込まれます。新製品の投入による需要喚起を期待すると同時に、当社グループの強みである高品質・高付加価値製品作りの推進と、「MPI-30」活動を中心にした原価低減活動の徹底によって、利益率の向上に取り組んでいく所存です。

:: 事業紹介

｜ショットガン｜

ミロク製作所が米国ブローニング社と提携してOEM生産する猟銃は、『BROWNING』のブランドを冠して、世界の市場に送り出されます。ショットガン（散弾銃）は、単発から上下二連、ポンプアクションまでラインアップも豊富。なかでも上下二連式のショットガンは、高級クラスのカテゴリーでは米国内で40%程のシェアを占めるヒット商品です。日本国内向けには、自社ブランド「B.C.MIROKU」の名で販売されています。

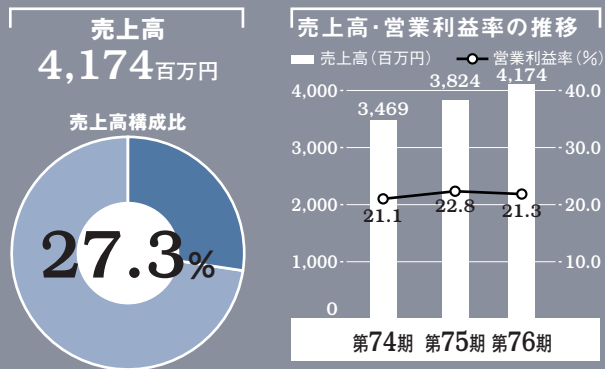


｜ライフル｜

ブローニング社と提携して最初に量産を開始したのが、22口径のレバーアクションライフル銃でした。現在もレバーアクションならびにボルトアクションのライフル銃を製造しています。『BROWNING』ブランドだけでなく、世界的ブランド『WINCHESTER』が誇る19世紀後期のライフル銃を、ミロクの技術によって現代に蘇らせました。西部開拓時代のスピリットを受け継ぐ名品として、高い評価を受けています。



工作機械事業



自動車・金型関連業界を中心とする設備投資が引き続き活発に推移し、工作機械も好調を堅持しました。ツール部門および加工部門は前期に比べ若干の減収・減益となりましたが、機械部門は付加価値の高いガンドリルマシンの販売台数が前期比34.4%増となりました。

その結果、売上高は4,174百万円(前期比9.1%増)、営業利益は890百万円(前期比2.2%増)となりました。なお、売上高にはセグメント間の内部売上高81百万円を含んでいます。

来期も自動車・金型関連業界を中心に引き続き好調に推移するものと予想されます。安定的な売上・利益を確保するため、製造および設計部門の効率化によって原価低減を図るとともに、営業体制の強化による受注拡大を目指し、業績の維持・拡大に努めていきます。

:: 事業紹介

| 機械部門 |

金属などに深い孔を真っ直ぐにあけるガンドリルマシンを自社で商品化し、自動車関連業界や金型業界などの精密な孔加工を必要とする企業へ納入。北米や東南アジアなどの世界市場にも進出しています。また、半導体業界などへは精密研磨を行うラッピングマシンを供給しています。

ガンドリルマシン



ラッピングマシン

| ツール部門 |

ガンドリルマシン用の各種ドリル類、ラッピングマシン用の各種定盤やラッピングパウダー類といった消耗品の販売を行っています。また、ドリルやリーマ、ロータリーバーといった一般的な超硬切削工具も販売しています。



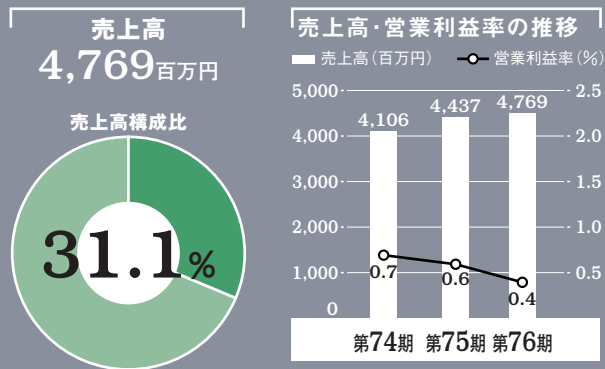
ガンドリル

| 加工部門 |

自社のガンドリルマシンを使った孔あけ加工を請け負っています。相模原、柏、名古屋にある4工場において、高精度・高能率、そしてコストパフォーマンスに優れた深孔加工と、孔加工に付随する全加工に対応します。



自動車関連事業



自動車業界は引き続き好調を維持し、自動車関連事業も順調に推移しました。主力の純木製ステアリングハンドルおよびシフトノブの販売数量は、搭載車種への装着率が増加したことなどにより、前期を上回りました。

その結果、売上高は4,769百万円（前期比7.5%増）、営業利益は18百万円（前期比29.7%減）となりました。

来期も自動車業界は好調を堅持し、自動車関連事業も成長路線を維持するものと予想しています。決して現状に甘んじることなく、トップライン（売上げ）の成長を命題に、独自の視点と技術を活用した付加価値の高い新製品の企画・開発・提案と、トヨタ生産方式の推進による継続的改善に取り組んでいきます。

※自動車関連事業は、持分法適用関連会社である（株）ミロクテクノッドを中核としており、同事業の発展・成長は、主に持分法投資利益の増加を通じて、当社連結業績に反映されます。

:: 事業紹介

| 純木製ステアリングハンドル |

猟銃製造から派生した木工技術が認められ、ミロク製品がトヨタ自動車に純木製ステアリングハンドルとして採用されました。世界最高水準のさまざまな規格テストに合格し、量産体制も確立。独自の技術により、フィンガーレストなどの3次元曲面も自由に造形することが可能です。



ウォールナット
(くるみ) 製



メイプル
(かえで) 製

| 自動車内装木工パーツ |

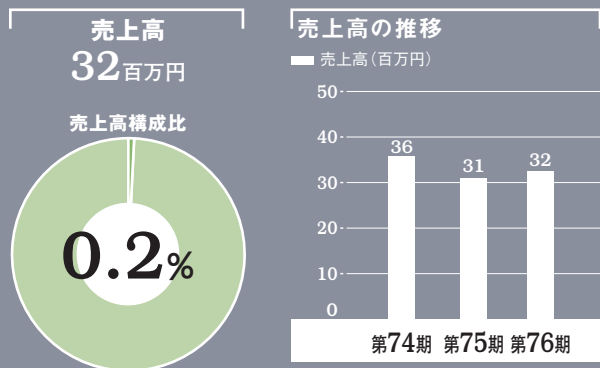
トヨタ自動車との関わりは1997年までさかのぼります。長年培ってきた木工技術をベースに、ひとつとして同じものがない自然素材を使い、可能な限り均質な工業製品を作る生産体制を実現。自動車用シフトノブなどで高い評価を得るに至りました。



シフトノブ



その他事業



銃づくりの含浸技術を屋外建築用木材に応用したミロモックル事業は、新しい技術の展開と関東・関西圏を中心とした営業活動を堅実にを行っています。しかし、公共施設などへの予算削減といった外的要因により、引き続き厳しい状況が続きました。

その結果、売上高は32百万円、営業損失は6百万円となりました。

今後は、環境にやさしい薬剤を使用していることをアピールして競合商品との差別化をはかり、一般住宅関連などの民需部門へ積極的にアプローチし、勝機を見出すべく準備を進めています。

※ 事業紹介

「ミロモックル事業」

主な技術は、薬剤を木材に浸透させ熱処理をすることによって、互いに重合し木材内部で定着させます。その結果、木材の狂いや腐食を防止するという含浸技術。猟銃用木材の耐候性研究から生まれたこの技術を屋外建築用木材に応用し、自然素材の風合いを活かしたまま、長期的に維持することを可能にしたのが「ミロモックル製品」です。環境や人体に無害な薬剤を使用し、地球環境に配慮した休憩施設や、心やすらぐ「ぬくもりの広場」等で幅広く親しまれています。今後は、一般住宅の基礎部分への応用など、建築分野での展開に期待が高まっています。



京都府長岡京市／八条ヶ池



広島県豊田郡本郷町／中央森林公園・三景園

Column

コラム



ミロク銃に「くるみ」が使われる理由

ミロク銃の銃床は、美しい木目を活かした表面の仕上げや繊細な網目によって、銃を刀剣に匹敵する名工の技が生み出す工芸品に仕上がっています。銃床の素材として、一般的に使われているのが「くるみ」。その理由は機関部の衝撃に耐える硬さと強さと粘りを持ち、網目などの繊細な切り込みが可能、経年変化による収縮・歪みが少ないからです。国内には銃床に適したくるみ材がなく、アメリカやトルコなどから輸入しています。

特集

技術の粋を結集した待望の
ニューモデルがデビュー!

ミロクの技術の粋を結集し、シューターたちの期待に応え、3種類の新製品をリリース。

01 | M-1892
John Wayne生誕100年記念銃 [2007年リリース]

アメリカの西部開拓時代にウインチェスター社が世に送り出した歴史に残る銘銃です。西部劇でこの銃を愛用した俳優ジョン・ウエインの生誕100年を記念し、レプリカモデルとして限定5,000丁を生産。銃身にはジョン・ウエインのサイン、機関部には肖像の彫刻を金メッキで施し、高級網目付きの油仕上げストックを用いるなど、難易度の高い技術を結集したレバーアクションライフルです。



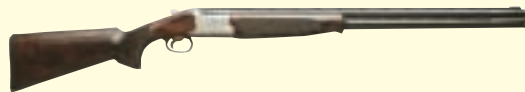
02 | X-BOLT [2008年リリース]

現行の主力ライフル「A-BOLT」が持っていない特徴を加味し、スマートなフォルムに刷新したボルトアクションライフル。セーフティーをかけた状態でもボルトが開閉できて薬室の弾丸が取り出せる一歩進んだ安全機構、確実な弾の装填ができるデタッチャブルロータリーマガジン、ストロークが短く切れ味の鋭いトリガー、発射時の反動をやわらげる衝撃吸収リコイルパッドなど、シューターたちのニーズを先取りした斬新なアイデアが採用されています。



03 | Citori 625 [2008年リリース]

銘銃として数多くのファンを持つショットガン「Citori 525」をベースに、撃発機構、命中精度、スタイルをさらに進化させた後継機種。鋭い切れ味に磨きかけた改良トリガー、散弾の変形を抑えるための、薬室の緩やかなテーパ角度、機械による深彫りの彫刻、独自開発した油仕上げによる、光沢と質感を兼ね備えたストックなどが盛り込まれた自信作です。



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	当連結会計年度末	前連結会計年度末	科目	当連結会計年度末	前連結会計年度末
	(平成19年10月31日)	(平成18年10月31日)		(平成19年10月31日)	(平成18年10月31日)
資産の部			負債の部		
流動資産	6,661,798	6,392,730	流動負債	5,471,554	5,533,500
現金及び預金	976,532	925,882	支払手形及び買掛金	2,303,407	2,249,675
受取手形及び売掛金	2,877,602	2,936,266	短期借入金	1,800,000	1,800,000
たな卸資産	2,434,962	2,203,975	1年以内償還予定の社債	—	300,000
繰延税金資産	93,693	120,443	1年以内返済予定の長期借入金	300,000	—
その他	301,859	229,814	未払法人税等	79,224	261,581
貸倒引当金	△22,851	△23,651	繰延税金負債	—	1,313
固定資産	9,375,407	8,763,902	賞与引当金	135,239	132,546
有形固定資産	5,509,402	4,915,438	役員賞与引当金	34,600	53,900
建物及び構築物	1,634,404	1,112,777	その他	819,084	734,483
機械装置及び運搬具	2,011,313	1,862,642	固定負債	2,674,702	2,333,507
土地	1,568,295	1,568,547	社債	200,000	200,000
建設仮勘定	44,913	215,719	長期借入金	1,200,000	800,000
その他	250,475	155,751	繰延税金負債	295,531	241,297
無形固定資産	74,212	91,038	退職給付引当金	825,237	730,902
のれん	—	7,392	役員退職慰労引当金	153,932	359,194
その他	74,212	83,645	負ののれん	—	2,113
投資その他の資産	3,791,792	3,757,425	負債合計	8,146,257	7,867,008
投資有価証券	2,586,089	2,631,239	純資産の部		
繰延税金資産	449,286	382,152	株主資本	7,486,370	6,909,973
その他	910,623	943,215	資本金	863,126	863,126
貸倒引当金	△154,207	△199,182	資本剰余金	519,289	519,289
資産合計	16,037,205	15,156,632	利益剰余金	6,174,819	5,595,987
			自己株式	△70,864	△68,429
			評価・換算差額等	397,494	368,653
			その他有価証券評価差額金	397,172	369,280
			為替換算調整勘定	321	△626
			少数株主持分	7,083	10,996
			純資産合計	7,890,948	7,289,624
			負債・純資産合計	16,037,205	15,156,632

連結損益計算書

(単位:千円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	(自 平成18年11月1日 至 平成19年10月31日)	(自 平成17年11月1日 至 平成18年10月31日)
売上高	15,231,995	15,067,601
売上原価	12,906,361	12,285,445
売上総利益	2,325,633	2,782,156
販売費及び一般管理費	1,639,460	1,658,376
営業利益	686,173	1,123,780
営業外収益	348,805	317,217
受取配当金	26,950	23,821
持分法による投資利益	250,458	218,721
負のれん償却額	2,725	3,875
その他	68,671	70,799
営業外費用	54,360	42,346
支払利息	40,550	33,408
賃貸費用	9,522	6,136
その他	4,287	2,802
経常利益	980,617	1,398,650
特別利益	238,332	40,583
貸倒引当金戻入益	11,453	10,583
投資有価証券売却益	54,796	—
保険金収入	151,317	—
保険解約差益金	18,165	30,000
その他	2,600	—
特別損失	160,447	53,658
固定資産除却損	13,240	14,264
減損損失	16,312	7,369
たな卸資産処分損	—	6,373
投資有価証券評価損	77,453	—
入会金等評価損	—	14,180
ゴルフ会員権評価損	—	9,550
役員甲斐金	40,000	—
その他	13,440	1,921
税金等調整前当期純利益	1,058,503	1,385,576
法人税、住民税及び事業税	354,098	590,189
法人税等調整額	△8,096	△78,898
少数株主利益	298	97
当期純利益	712,201	874,187

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	(自 平成18年11月1日 至 平成19年10月31日)	(自 平成17年11月1日 至 平成18年10月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	570,463	1,224,378
投資活動による キャッシュ・フロー	△742,785	△1,070,548
財務活動による キャッシュ・フロー	223,425	△165,720
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△453	253
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少額)	50,649	△11,637
現金及び現金同等物の 期首残高	925,882	937,520
現金及び現金同等物の 期末残高	976,532	925,882

連結株主資本等変動計算書(自 平成18年11月1日 至 平成19年10月31日)

(単位:千円)

	株 主 資 本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成18年10月31日残高	863,126	519,289	5,595,987	△68,429	6,909,973	369,280	△626	368,653	10,996	7,289,624
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△133,370		△133,370					△133,370
当期純利益			712,201		712,201					712,201
自己株式の取得				△2,435	△2,435					△2,435
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						27,891	948	28,840	△3,912	24,927
連結会計年度中の変動額合計	—	—	578,831	△2,435	576,396	27,891	948	28,840	△3,912	601,324
平成19年10月31日残高	863,126	519,289	6,174,819	△70,864	7,486,370	397,172	321	397,494	7,083	7,890,948

単体財務諸表

貸借対照表

(単位:千円)

科目	当事業年度末	前事業年度末
	(平成19年10月31日)	(平成18年10月31日)
資産の部		
流動資産	2,707,900	2,466,623
固定資産	6,191,094	5,727,112
有形固定資産	2,184,007	1,751,118
無形固定資産	718	1,498
投資その他の資産	4,006,368	3,974,495
資産合計	8,898,994	8,193,736
負債の部		
流動負債	2,350,972	2,248,423
固定負債	1,769,115	1,452,634
負債合計	4,120,087	3,701,058
純資産の部		
株主資本	4,395,602	4,134,177
資本金	863,126	863,126
資本剰余金	531,290	531,290
利益剰余金	3,044,212	2,780,352
自己株式	△43,027	△40,592
評価・換算差額等	383,304	358,500
その他有価証券評価差額金	383,304	358,500
純資産合計	4,778,907	4,492,677
負債・純資産合計	8,898,994	8,193,736

損益計算書

(単位:千円)

科目	当事業年度	前事業年度
	(自 平成18年11月1日 至 平成19年10月31日)	(自 平成17年11月1日 至 平成18年10月31日)
営業収益	668,425	716,624
営業費用	344,966	322,604
営業利益	323,459	394,019
営業外収益	114,498	93,708
営業外費用	41,475	34,417
経常利益	396,482	453,311
特別利益	208,616	—
特別損失	134,119	27,398
税引前当期純利益	470,979	425,912
法人税・住民税及び事業税	36,805	39,045
法人税等調整額	36,943	△1,006
当期純利益	397,230	387,873

株主資本等変動計算書 (自 平成18年11月1日 至 平成19年10月31日)

(単位:千円)

	株 主 資 本					評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成18年10月31日残高	863,126	531,290	2,780,352	△40,592	4,134,177	358,500	4,492,677
事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△133,370		△133,370		△133,370
当期純利益			397,230		397,230		397,230
自己株式の取得				△2,435	△2,435		△2,435
固定資産圧縮積立金の繰入							—
固定資産圧縮積立金の取崩							—
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)						24,804	24,804
事業年度中の変動額合計	—	—	263,860	△2,435	261,425	24,804	286,229
平成19年10月31日残高	863,126	531,290	3,044,212	△43,027	4,395,602	383,304	4,778,907

会社概況

(平成19年10月31日現在)

会社概要

社 名：株式会社ミロク
Miroku Corporation

所在地：高知県南国市篠原537番地1

設立：1946(昭和21)年7月5日
2003(平成15)年5月1日持株会社化

資本金：863,126千円

従業員数：564名(連結対象子会社含む)

事業内容：**猟銃事業**
猟銃の製造および販売

工作機械事業
深孔加工機等工作機械・工具の製造
および販売

自動車関連事業
自動車用部品の製造および販売

その他事業
木工製品の加工および販売

役員

代表取締役社長：弥勒 美彦

代表取締役専務：田中 勝久

取締役：四手井 洋一

取締役：荒井 瑞夫

取締役：チャールズ・グブラモント

取締役：近藤 久視

取締役：堀川 洋幸

取締役：ジャン・ピエール・ワレマック

常勤監査役：深見 裕夫

監査役：山本 吾一

監査役：加藤 康彦

監査役：大西 俊郎

連結子会社

株式会社ミロク製作所
株式会社ミロク精工
株式会社香北ミロク
株式会社梶原ミロク
ミロク機械株式会社
MIROKU MACHINE TOOL, INC.
株式会社馬路ミロク

関連会社

株式会社ミロク工芸
ニッサンミロク株式会社
株式会社ミロクテクノウッド
T&M USA INC.
株式会社特殊製鋼所
株式会社ミロク興産

ホームページのご案内

企業・製品・採用情報のほか、投資家情報コーナーも充実させ、財務データや決算短信などを公開しています。銃作りの工程を分かりやすく紹介した「バーチャル工場見学」も好評です。ぜひご覧下さい。

URL <http://www.miroku-jp.com/>



株式情報

(平成19年10月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数 50,000,000株
発行済株式総数 15,027,209株
株主数 1,278名

大株主 (上位10名)

	持株数 (千株)	出資比率 (%)
ブローニング・アームズ・カンパニー (常任代理人 野村證券株式会社)	1,474	9.8
株式会社ミロク興産	997	6.6
日本興亜損害保険株式会社	789	5.3
株式会社四国銀行	710	4.7
株式会社高知銀行	665	4.4
株式会社西島製作所	577	3.8
日興シティ信託銀行株式会社 (投信口)	550	3.7
ミロク共栄会	508	3.4
日本油脂株式会社	491	3.3
明治安田生命保険相互会社	444	3.0

株式分布状況

所有者別株主数

政府・地方公共団体	1名 (0.08%)
金融機関	16名 (1.25%)
証券会社	8名 (0.63%)
その他の法人	76名 (5.95%)
外国法人等	9名 (0.70%)
個人・その他	1,167名 (91.31%)
自己名義株式	1名 (0.08%)

所有者別持株数

政府・地方公共団体	45,600株 (0.30%)
金融機関	4,596,623株 (30.59%)
証券会社	18,206株 (0.12%)
その他の法人	4,665,231株 (31.05%)
外国法人等	1,835,845株 (12.22%)
個人・その他	3,653,461株 (24.31%)
自己名義株式	212,243株 (1.41%)

合計
1,278名

合計
15,027,209株

株主メモ

事業年度：毎年11月1日から翌年10月31日まで
基準日：定時株主総会 10月31日
剰余金の配当 期末 10月31日
中間 4月30日

株主名簿管理人：〒100-0005
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所：〒530-004
(お問い合わせ先) 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
電話 0120-094-777 (フリーダイヤル)

同取次所：三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
野村證券株式会社 全国本支店

公告方法：電子公告の方法により行います。
ただし、やむを得ない事由により
電子公告をすることができない場合は、
日本経済新聞に掲載します。
電子公告掲載 URL
<http://www.miroku-jp.com/>

単元株式数：1,000株
証券コード：7983

株式関係のお手続き用紙のご請求は、
次の三菱UFJ信託銀行の
電話およびインターネットでも
24時間承っております。

電話 (フリーダイヤル)
0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪証券代行部)

インターネットホームページ
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>